

改訂版 JIS L 1902 の運用について

1. 改訂版 JIS L 1902 の公示（発売）予定日

平成 27 年 7 月 21 日（日本規格協会より連絡）

2. 改訂版 JIS L 1902 の運用

今年度中は現行 JIS を運用し、来年度から改訂版 JIS を運用する。

改訂内容、特に静菌活性値や殺菌活性値を止めて抗菌活性値に統一する件等を会員等に周知するのに十分な期間を要する為である。従って、改訂版 JIS の公示日より今年度末までは試験報告書に JNLA マークを求めない。

3. 改訂版 JIS L 1902 の運用（試験報告日：平成 28 年 4 月 1 日以降）

改訂版 JIS の主な変更点

現行 JIS		改訂版 JIS		
現行	項番	変更点	項番	留意点
静菌活性値 (S)	10.1.5	抗菌活性値 (A)	8.1.5.2	log C ₀ 、log C ₁ 、log T ₀ 、log T ₁ 及び F を併記のこと
殺菌活性値 (L)	10.1.5			
計算方法：3 検体の生菌数、又は ATP 量の常用対数の平均値	10.1.5	計算方法：3 検体の生菌数、又は ATP 量の算術平均の常用対数	8.1.5.2	新成立条件：3 検体の常用対数の最小値と最大値の差が 2 以下
有効数字 2 桁に丸める	10.1.5	小数点以下 1 桁に丸める	8.1.5.	
—		log C ₀ > log T ₀ の場合、log T ₀ を log C ₀ として計算	8.1.5.2	加工剤即効性の処置
コロニーの形成が認められない場合、コロニー数は “<1” とする	8.2.2	コロニー数が 1 以下の場合、平均数を 1 とする	C.2.4	
—		培養器は消灯、遮光して使用する方がよい	解説 3m)	
試験に用いる細菌：加工種類別及び用途別の細菌	6.2	付属書 A に規定する細菌から、いずれかを選択して試験に用いる	7.1	試験が成立する場合、他の細菌も使用できる